

みずほマーケット・トピック(2021 年 6 月 18 日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は週後半に高値をつける展開となった。週初 14 日、109.70 円付近でオープンしたドル/円は、主要な米経済指標の発表がない中、米長期金利が上昇に転じたことに加え、FOMC を控えてのポジション調整の動きからドルが買われて、110 円台前半まで上昇し、そのレベルで底堅く推移した。15 日のドル/円も前日の流れが継続。様子見ムードが強まる中、終日を通して 110 円台前半において値幅 20 銭程度と狭いレンジでの値動きに留まった。16 日、前半は動意に乏しく 110 円ちょうど付近を挟んでの小動きとなった。注目の FOMC では、現行の政策金利変更はなかったものの、メンバーによる政策金利見通しが早期利上げを示唆するタカ派寄りの内容となったことを受けて米金利が上昇、ドル買いが加速し、110 円台後半まで急伸した。17 日、ドル/円は、前日の FOMC での早期利上げ観測を受けたドル買いが継続し、一時週高値の 110.82 円まで上値を切り上げた。その後は、週次での新規失業保険申請件数が事前予想よりも悪かったことが嫌気され、米金利の低下を受けてドルは売られ、110 円台前半まで下落した。本日のドル/円も同じ水準での取引となっている。
- 今週のユーロ/ドル相場は週後半にかけて下落する展開となった。週初 14 日、1.21 台前半でオープンしたユーロ/ドルは、特段材料もないまま軟調に推移し、1.21 ちょうども挟んでもみ合い推移となった。15 日、1.21 台前半で推移していたユーロ/ドルは、米国と EU の航空機補助金をめぐる貿易紛争解決期待から、一時週高値の 1.2147 まで急上昇したが、ユーロ買いは長続きせず、結局、1.21 台前半での小動きとなった。16 日のユーロ/ドルも 1.21 台前半で方向感なく推移していたが、FOMC での経済見通しの上方修正や利上げ開始の早期化を示唆するタカ派な内容を受けてドルが強含み、1.20 台半ば付近まで急落。その後も米金利が堅調に推移したこと受け、ドル買いが継続し、ユーロ/ドルは、1.20 台を割り込む展開となった。17 日、レーン ECB 理事がパンデミック緊急購入プログラムの終了議論は尚早と発言するとユーロ売りが優勢となり、一時週安値の 1.1890 まで急落。本日のユーロ/ドルは、1.19 台前半での取引となり軟調地合いが続いている。

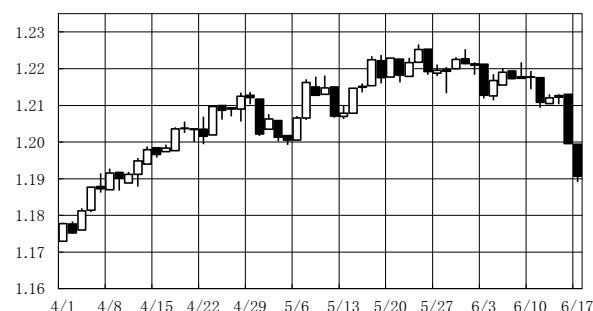
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		6/11(Fri)	6/14(Mon)	6/15(Tue)	6/16(Wed)	6/17(Thu)
ドル/円	東京9:00	109.40	109.72	110.05	110.08	110.77
	High	109.84	110.10	110.17	110.72	110.82
	Low	109.30	109.62	110.00	109.80	110.17
	NY 17:00	109.68	110.08	110.06	110.71	110.24
ユーロ/ドル	東京9:00	1.2175	1.2110	1.2122	1.2125	1.1995
	High	1.2193	1.2131	1.2147	1.2134	1.2006
	Low	1.2093	1.2095	1.2102	1.1995	1.1890
	NY 17:00	1.2109	1.2121	1.2126	1.1995	1.1907
ユーロ/円	東京9:00	133.19	132.81	133.36	133.48	132.84
	High	133.41	133.42	133.69	133.57	132.86
	Low	132.67	132.66	133.30	132.71	131.03
	NY 17:00	132.83	133.42	133.48	132.81	131.26
日経平均株価		28,948.73	29,161.80	29,441.30	29,291.01	29,018.33
TOPIX		1,954.02	1,959.75	1,975.48	1,975.86	1,963.57
NYダウ工業株30種平均		34,479.60	34,393.75	34,299.33	34,033.67	33,823.45
NASDAQ		14,069.42	14,174.14	14,072.86	14,039.68	14,161.35
日本10年債		0.03%	0.03%	0.04%	0.05%	0.06%
米国10年債		1.45%	1.50%	1.49%	1.58%	1.51%
原油価格(WTI)		70.91	70.88	72.12	72.15	71.04
金(NY)		1,879.60	1,865.90	1,856.40	1,861.40	1,774.80

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、22日(火)に5月中古住宅販売件数、23日(水)に5月新築住宅販売件数の発表を控える。4月の中古住宅販売件数(季節調整値、年換算)は585万件で前月比▲2.7%と3か月連続の減少となり市場予想も下回った。一方、販売価格が過去最高水準を維持していることは足許の供給不足を裏打ちしており、価格の高騰によって住宅市況の過熱は小休止に入った状況となっている。また、4月新築住宅販売件数は86.3万件で前月比▲5.9%減少し、価格動向は中古住宅販売市場と同様の動きをみせている。足許では建設業者の受注残が増加していることが報告されており、人員や材料の確保が困難であることも供給面がひっ迫している要因として指摘された。5月の結果に関し、ブルームバーグの事前予想では中古住宅販売件数を前月比▲2.2%としている。また、新築住宅販売件数に関しては、同+1.4%と予想としている。
- 英国では24日(木)に金融政策会合を予定している。5月末、金融政策委員会メンバーであるブリハ委員が英国経済の回復が続いた場合、22年中の利上げ開始が適切になるとの述べたことが耳目を集めた。このほかにも先週9日にホールデン委員が、14日にはベイリーイングランド銀行総裁が金融政策の見直しの必要性を示唆したことが報道されている。イングランド銀行は5月に週間の国債購入ペースを減速しており、金融政策の正常化への動きは米国や欧州よりも強まっている。14日に、来週21日に予定されていたイングランド地方のロックダウンの解除を1か月遅らせることが発表され、その後も国内での感染拡大が意識されたことでポンドの対ドルでの上昇は落ち着きを見せつつあるが、会合の結果を受けて再度相場が動意づく展開には注意したい。

	本 邦	海 外
6月18日(金)	・5月全国CPI ・黒田日銀総裁会見	・ユーロ圏4月経常収支
21日(月)	――	・米5月シカゴ連銀全米活動指数
22日(火)	・5月工作機械受注(確報)	・米5月中古住宅販売件数 ・ユーロ圏6月消費者信頼感指数
23日(水)	・日銀金融政策決定会合議事要旨(4月会合分) ・4月景気動向指数(確報) ・6月製造業/サービス業PMI	・米5月新築住宅販売件数 ・米1～3月期経常収支 ・ユーロ圏6月製造業/サービス業PMI
24日(木)	――	・米1～3月期GDP(確報) ・EU首脳会議(25日まで) ・英金融政策会合
25日(金)	――	・米6月ミシガン大学消費者マインド(確報) ・米5月PCEコアデフレーター

【当面の主要行事日程(2021年7月～)】

日銀金融政策決定会合(7月15～16日、9月21～22日、10月27～28日)
 ECB政策理事会(7月22日、9月9日、10月28日)
 FOMC(7月27～28日、9月21～22日、11月2～3日)
 米ジャクソンホール経済シンポジウム(8月26～28日)

市場営業部・金融市場部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2021年6月17日	FOMCを終えて～前倒しで進む正常化シナリオ～
2021年6月16日	新たな安全資産の誕生～ハミルトン・モーメントか否か～
2021年6月15日	イングランド行動制限延長も構図は変わらず
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年5月分)
2021年6月14日	ビットコイン法定通貨化に関する考察
2021年6月11日	週末版(ECB政策理事会を終えて～PEPPのその先を考える～)
2021年6月9日	ワクチン追い風に盛り返すドイツ与党～最後の前哨戦～
2021年6月8日	試され始めた「双循環」～元高容認に妥調～
2021年6月4日	週末版(米5月雇用統計を前に～どうあれドル/円相場の行く先は変わらず～)
2021年6月3日	「蚊帳の外」感の強まる円相場～細る取引高～
2021年6月2日	着実に進むユーロ圏の日本化とユーロの堅調
2021年6月1日	米インフレ基調の現状と正常化プロセスへの考察
2021年5月28日	週末版(BOE早期利上げ観測の傍らで浮上する英国リスク～試されるワクチンの力～)
2021年5月26日	30年連続「世界最大の対外純資産国」の背後にドイツあり
2021年5月25日	「量」を意に介さないユーロ相場の騰勢
2021年5月24日	「コロナの終わり」で再認識する暗号資産の虚栄
2021年5月21日	週末版
2021年5月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年4月分)
	FOMC議事要旨～テーバリングが必要なのは財政政策？～
2021年5月19日	ECBのテーバリングはあるのか？
2021年5月18日	鮮明になる円に対する低い関心
2021年5月17日	円相場の基礎的需給環境～Q1を終えて～
2021年5月14日	週末版
2021年5月13日	インフレ懸念で米金融政策は動きそうか？
2021年5月12日	連動が戻り始めた米株価と米消費者心理
2021年5月11日	スコットランド独立を巡るQ&A～現状と展望～
2021年5月10日	最近の為替市場に見る「正常化の胎動」
2021年5月7日	週末版(FRBの対話を阻害してしまうイエレン長官の存在～避けたい「院政」状態～)
2021年5月6日	明暗が鮮明になった「米国 vs. ユーロ圏 & 日本」
2021年4月30日	週末版
2021年4月27日	「成長痛」に直面しそうな新興国はどこにあるか？
2021年4月26日	年後半に警戒したい金融市場の「成長痛」
2021年4月23日	週末版(ECB政策理事会を終えて～6月、テーバリングと曲解されるリスクを警戒～)
2021年4月21日	ユーロ圏銀行貸出態度調査～与信環境の厳しさは継続～
2021年4月20日	調整色が強まってもワクチン相場の核心は変わらず
2021年4月19日	為替政策報告の読みから～イエレン長官の思惑は～
2021年4月16日	週末版(長きにわたる正常化プロセスの始まりか～まずはパウエルショックの回避が至上命題～)
2021年4月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年3月分)
2021年4月14日	多様化が進む世界の外貨準備～ドル離れが顕著に～
2021年4月13日	ユーロ相場の展望～盤石の需給が支えに～
2021年4月12日	近年の「年間値幅」をこなしたドル/円相場の今後
2021年4月9日	週末版(GFSRも懸念する世界経済の「成長痛」～中長期的に拡がる「金利の無い世界」のフロンティア～)
2021年4月7日	IMF世界経済見通しが示す新興国の憂鬱
2021年4月6日	暗雲垂れ込めるアフターメルケルのドイツ政治
2021年4月5日	米3月雇用統計の読み方～長期失業者割合は上昇～
2021年4月2日	週末版(欧州で台頭するワクチン・ナショナリズム～EU 離脱を象徴するワクチン戦争～)
2021年4月1日	ラガルドECB総裁「挑発」の真意はどこに？
2021年3月29日	リスクシナリオの点検～上下のリスクを検討する～
2021年3月26日	週末版(現状を理解するための3つのテーマ「金利」・「コロナ抑制状況」・「原油」～「需給」は小休止～)
2021年3月25日	ドイツ州議会選挙に見る「移民から環境へ」のシフト
2021年3月22日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年2月分)
2021年3月19日	週末版(「実質金利ゼロ」が次の節目？～ハイライトは4～6月期か？～)
2021年3月18日	FOMCレビュー～現状維持に見る強気の足音～
2021年3月16日	FOMCレビュー～ドットチャート&議長会見～
2021年3月15日	期待の米国、不安の日本～コロナ対応の明暗～
2021年3月12日	週末版(ECB政策理事会を終えて～significantly higher paceの解釈～)
2021年3月11日	ECB政策理事会レビュー～PEPPの加速を示唆～
2021年3月9日	年初来の為替市場から見える「今年のテーマ」
2021年3月8日	好調な米2月雇用統計にも見逃せない危うさ
2021年3月5日	週末版
2021年3月4日	英ポンド急騰の背景～経済対策、ワクチン、成長率～
2021年3月3日	米金利に連れたユーロ圏金利～ECBは容認できず～
2021年3月2日	「鏡に映った自分」に惑うFRB～前提が変わった2か月間～
2021年2月26日	週末版(米10年金利の1.60%台到達を受けて～パウエルショック～)
2021年2月25日	マネーサプライを見てインフレ語れず～パウエル公聴会～
2021年2月22日	「民間部門の貯蓄過剰」は今後の「マグマ」なのか？
2021年2月19日	週末版(ECB政策理事会議事要旨を受けて～明記された「ユーロ高反転」～)
2021年2月18日	動き始めた米実質金利への懸念～10年1.3%到達を受けて～
2021年2月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年1月分)
	アフターコロナを予感させる米国のインフレ論争
2021年2月15日	ドラギ新首相誕生について～「拳国一致」と「寄せ集め」の狭間～
2021年2月12日	週末版(下がらない実質金利とイールドスプレッドの現状～やはり気になる「米10年金利1.5%」という節目～)
2021年2月9日	円相場の需給環境～貿易均衡国という新常态～
2021年2月8日	試される「双循環」～人民元の上昇は容認されるか～
2021年2月5日	週末版(なぜユーロ圏消費者物価指数(HICP)は急騰したのか？～過性のまやかし～)
2021年2月4日	最悪の落ち込みとなった2020年のユーロ圏経済
2021年2月2日	イスラエルリスクをどう考えるか～世界の実験室～
2021年1月29日	週末版(マイナス金利深掘りを示唆し始めたECB～その理由はどこに？～)
2021年1月27日	米10年金利はどこまで上がりそうか？
2021年1月25日	最悪となった2020年のユーロ圏物価情勢
2021年1月22日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「次の一手」はVCC？～)
2021年1月20日	「強いドル」とは言わなかったイエレン新財務長官
2021年1月19日	直接投資減少で緩むドル/円相場の「地盤」
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年12月分)
2021年1月18日	金融市場はバイデン新政権をどう見ているのか？
2021年1月15日	週末版(ECB政策理事会議事要旨～ラガルド流が試されるのは昨年よりも今年～)
2021年1月13日	実質金利の上昇はどこまで容認されそうか？
2021年1月12日	米12月雇用統計の読み方～ヘッドラインに引きずられず～
2021年1月8日	週末版(早速乱れ始めたFRBのフォワードガイダンス～いつも通りの済し崩し～)